

おおい自然園 自然観察会

春の生きもののさがし



日時 平成29年4月22日（土）午前9時00分～11時30分

場所 おおいゆめの里

講師 一寸木 肇 おおい自然園園長

参加者 16人

サポーター 3人

職員 1人

ツバメがやってきた



みなさん、こんにちは。これから春の生きものさがしをはじめます。 今日もいろいろな生きものを観察しましょう。

農業体験施設「四季の里」の壁にツバメを見つけました。

ツバメは冬の間、遠く南のフィリピンや台湾、マレー半島やオーストラリアにいて、春になると、はるばる日本へやって来る渡り鳥です。

早速、双眼鏡で、観察してみましよう。

体の色の特色はどうでしょう。

おなかは、何色ですか？ → 「白い。」

背中の色は？ → 「黒い。」

顔の色は？ → 「赤い部分があるよ。」



大井町ではこの時季、ツバメが巣を作り、ひなを育てる姿を見かけます。

ツバメは人家などに巣を作り、ひなを育てるので、私たちにとって身近な鳥です。そして、飛んでいる昆虫をえさにしているため、自然界のバランスをとる役目もなっています。

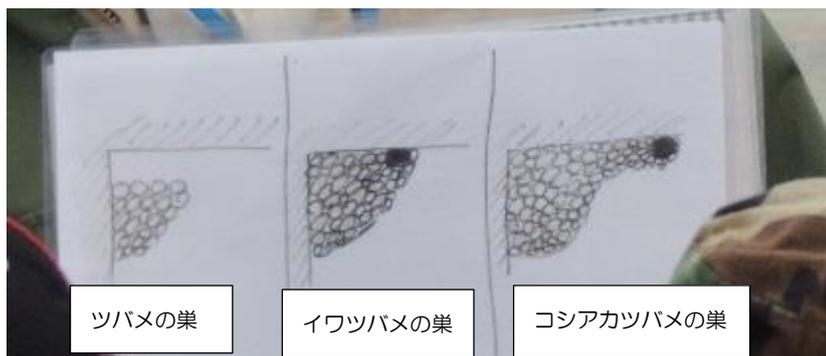
大井町には2種類のツバメがいます。

ひとつは普通のツバメで、もう一つはイワツバメというツバメです。

イワツバメは普通のツバメよりも少し体が小さく、背中に白い部分があります。

大井町の中でイワツバメは、足柄紫水大橋の下に巣を作っています。





ツバメは種類によって巣の作り方も違います。

ドウダンツツジの花の形を観察してみよう



白い花がきれいに咲いています。
この花の花びらは何枚あるでしょうか？
花びらがつながっていて1枚ですね。



この花の名前は、ドウダンツツジといいます。
これは、この花の枝が、昔、あかりを灯すときに使った灯台（とうだい）に似ていることが花の名前の由来になっています。「とうだい」がなまって「どうだん」になったといわれています。



カラスの歩き方を観察してみよう

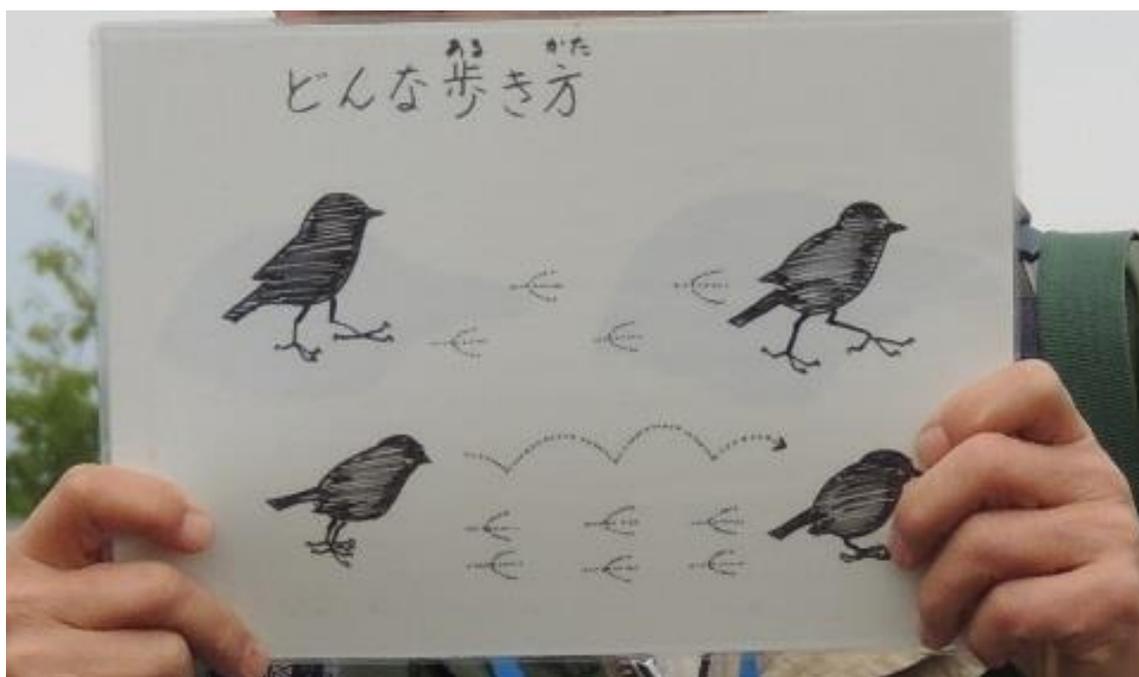


畑にカラスを見つけました。

どんな歩き方をしていますか？ 双眼鏡で見てください。



鳥の歩き方を観察すると、歩く（ウォーキング）鳥や跳ねる（ホッピングする）鳥がいます。カラスはウォーキングもホッピングもできる鳥です。





大井町には2種類のカラスがいます。ハシブトガラスとハシボソガラスです。くちばしと頭の形が違いますね。ハシボソガラスは平野部に多く棲んでいて鳴き方は「ギャー、ギャー」と鳴きます。一方、ハシブトガラスは、山間部に多く棲んでいて、鳴き方は、「カー、カー」と澄んだ声で鳴きます。

それでは、今、畑にいるカラスはどちらの種類でしょうか？

くちばしの形を見るとハシボソガラスですね。ここは、平野部にも近いので、ハシボソガラスも棲んでいるのでしょうか。

畑の足跡は誰のもの？

畑にいろいろな動物の足跡があります。何の動物の足跡でしょうか。



農家の方に聞いてみましょう。

問「こんにちは。いろいろな足跡がありますね。」

農家の方「昨年まではイノシシの足跡はなかったけれど、今年初めてイノシシの足跡を畑で見つけて驚いたよ。」

「この足跡はタヌキかハクビシンだと思うけれど、ハクビシンはあちこち遊びながら歩くから、この足跡はタヌキかな。」

昼間は見ることはできなくても、いろいろな野生動物が棲んでいることが足跡からわかりました。



電線で鳴いている鳥を観察しよう



電線で鳥が鳴いています。

大きさは？

「スズメくらい。」

顔の特徴は？

「目のところは黒で目上と下は白いよ。」

この鳥はホオジロという鳥です。

刺すカメムシ ヨコツナサシガメを観察しよう



さくらの木でヨコツナサシガメの集団を見つけました。
どんな口をしているか虫めがねで観察してみましょう。



口が注射の針みたい！

ヨコツナサシガメは刺すカメムシです。刺されると、とても痛いので見つけても触らないようにしてくださいね。

タンポポの花の一生



タンポポの花が咲いています。
今日は、タンポポの花の一生を若い順に並べてみましょう。



花を分解してみると、種子と綿毛になるもと（冠毛）がたくさんありました。この部分がやがてふわふわの綿毛になるのですね。





ところで、綿毛が開いた茎は花の茎に比べて長いですね。どうしてでしょうか？

小学校2年生の時に、「たんぽぽのちえ」という話を国語で習いました。覚えているでしょうか？

こんな内容でした。

- ①春になると、きれいな花がさく。
- ②花とじくを休ませて、種子を太らせる。
- ③綿毛についている種を飛ばす。
- ④背を高くして、種を遠くまで飛ばす。
- ⑤湿り気の多い日や、雨ふりの日にはすぼむ綿毛。
- ⑥知恵をはたらかせて、なかまをふやす。

綿毛の茎が長いのは遠くまで、種を飛ばす知恵だったのですね。



今度は綿毛についている種子の形を観察してみましよう。

種子はどんな形をしていますか？

子 「ギザギザしている!」

なぜ、このような形をしているのでしょうか？

種子が地面に落ちたときに、地面に刺さりやすくするためです。

まるで船のいかりみたいですね。

一つの綿毛にできる種の数には100個～120個くらいといわれています。





子どもたちがタンポポの花に来たハチを見つけました。

ハチの足にたくさんの花粉がついていることが分かります。

ハチやいろいろな昆虫が、タンポポのところにやって来て、受粉の手伝いをしているのですね。

菜の花の一生

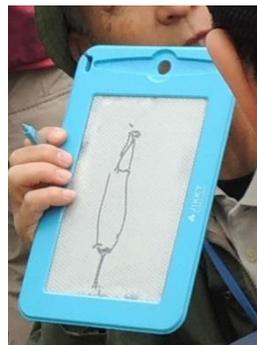


この花の名前を知っていますか？
菜の花と呼ばれていますが、植物図鑑にはアブラナという名前で表記されています。

今日は、この花の咲き方を観察してみましょう。

花は茎の上から咲くのでしょうか？それとも下から咲くのでしょうか？

アブラナは、茎の下から咲く植物です。



花を分解すると、花の真ん中に1本のめしべがあります。

この部分がやがて実になるのですね。



花の一生を若い順から並べてみましょう。



アブラナの実の中から種子を取り出してみましょう。

種子がたくさん入っていますね。

昔は、この種子をしぼって、油を取りました。また、取れた油は明かりを灯す灯明皿（とうみょうざら）というお皿に入れて、夜の照明として使いました。



※写真の灯明皿は、イメージであり本物ではありません。



菜種油の話では、二宮金次郎の話が有名です。

おじさんに預けられた金次郎は、ある夜、明かりをともして本を読んでいると、「油がもったいない。」としかられました。そこで、金次郎は空き地に菜種を植え、出来た菜種と油を交換して本を読むのですが、「時間ももったいない。百姓に学問はいらない。」と、またしかられました。それから始まったのが、まきを背負い歩きながら本を読む姿なのです。

電気がない昔は、油は貴重な資源だったのですね。

キムネクマバチの謎



キムネクマバチが休憩所の屋根の木に穴をあけて巣を作っています。



昨年、巣の中がどうなっているのか調べてみました。すると、穴は横に掘られていて、いくつもの部屋に仕切られていました。

そして、その部屋の中に花粉と蜂蜜で出来ただんごがそれぞれの部屋に入っていました。

キムネクマバチはこれらの花粉だんごに卵を産みます。

ところで、一つ疑問ですが、奥に産んだ卵がかえったときに幼虫はどうやって出てくるのでしょうか？ 不思議ですね。

今日あったことを新聞にしよう



今日も、たくさんの生きものを観察しました。

自然は不思議がいっぱいです。

これからもたくさんの不思議を楽しみましょう

